



2000年5月20日

発行/(社)三原青年会議所
編集/広報委員会
三原市皆実4丁目8番1号
(三原商工会議所内)
TEL(0848)63-3515
FAX(0848)62-1141
インターネットアドレス
<http://www.tako.ne.jp/~mjc/>
Eメールアドレスmjc@tako.ne.jp

2000年三原JCスローガン



Keep it straight

—未来へ向かってゆっくと歩き出そう—

今月号の記事

- 1面 Step up to小早川市 ~三JC理事長鼎談~
- 2面 ~竹原市長インタビュー~ / コラボロード
- 3面 未来クル通信 / 「21世紀を担う三原っ子のために」
- 4面 わんぱく相撲参加者募集 / めざせ広域交流! / やっさもっさ祭り

みたか
きいたか



しまなみ海道が開通して約一年が経過した。このゴールデンウィーク期間中、記念イベントがあちらこちらで行われ、出かけられた方も沢山おられることであろう。去年の今頃、この「やっさもっさ」でもしまなみ海道開通を取り上げ、各地域間での取り組み方の違いについて特集を組んだことを思い出す。実際に尾道や瀬戸田では訪れる人が急増したそうである。一方、みはらはどうであろうか。「活気のあるまち」「元気のあるまち」にしたいのは誰もが望むことであろうか、では、誰がしてゆくのであろうか。やはり行政か、自分以外の誰かがすることなのか。どうも「まち」となると大きすぎて他人事のように思ってしまうのか、なかなか前へ進まない様な気がする。元気で活気のある家庭や町内、会社や店が集まっているのがまちなだから、自分の会社や店が「活気がある店」になるにはどうすれば良いか。「元気のある」自分の町内や家庭にする為出来ることは何かと考えれば具体的な行動を起こしてゆくことができるのではないだろうか。「知っていること」と「解ること」とは似ているが全く別物である。後者には行動が伴う。最初は大変だろうが一旦、転がり出せば雪だるまのように周囲を巻き込みながら大きく膨らんでゆく。まずは自分たちの出来ることから始めること、行動することが肝心であろう。



三原JC
理事長
内海勝義



竹原JC
理事長
佐渡泰



東広島JC
理事長
佐々木和彦

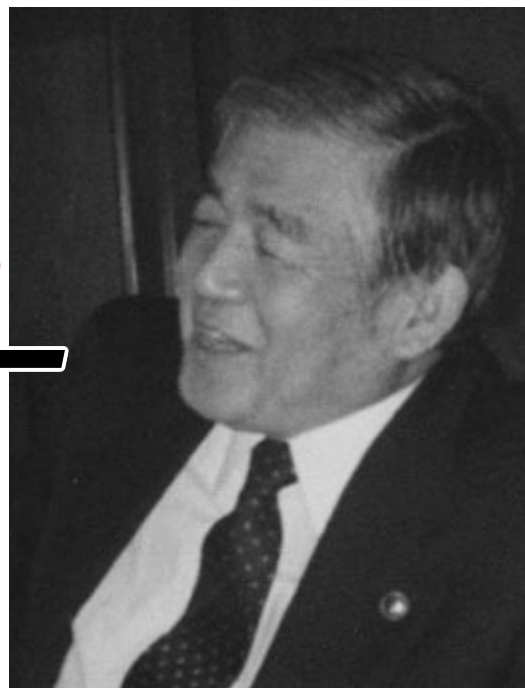


理事長鼎談



竹原市長 中尾義孝市長

直撃インタビュー



(社)三原青年会議所は、住民主導型の地域再編を考えていく中で、昨年、合併モデルとしての「小早川市」を提唱しました。

今回、広島空港を取り囲み「明るい豊かなまちづくり」をめざして活動する3JC(社)竹原青年会議所・(社)東広島青年会議所・(社)三原青年会議所の理事長が集い、今後の広域的なまちづくりについて議論いたしました。

さらに、本郷町長、久井町長、瀬戸田町長との対談に続き、「小早川市」の構成市町村である竹原市(中尾義孝市長)への直撃インタビューを敢行し、「広域合併」についての意見をお聞きしました。

Step Up to 小早川市

鼎談

竹原JC理事長
東広島JC理事長
三原JC理事長

Check! 「地方分権」

内海理事長 (三原JC) 「物の豊かさから心の豊かさへ」と社会の流れは変わってきました。心の豊かさは国レベルでなく、もっと身近なところで追求されるものです。だからこそ、地域社会の役割は重要なのだと思います。

ところが、中央集権に長く依存した結果、かつての地域社会を成り立たせていた「自立・自助・互助」の精神はすっかり失われてしまいました。自分たちでできることは他人に依存しない、「自分たちのまちのことは、自分たちの責任で、自分たちで決めていこう」という「地方自治の本旨」こそ、今、改めて考え直すべきことではないでしょうか。

佐渡理事長 (竹原JC) 「国依存のまちづくりから脱却し、自分たちのことは自分

ちの責任で自主的に行う」という問題意識が高まったからこそ、「中央集権から地方分権へ」という改革の必要性が叫ばれたのだと思います。

私たちのまちにとって「地方分権」を確立させてゆく運動は、まちの個性と自立性を取り戻すまちづくり運動に他ならないはずですし、そうするためには「住民参加」が不可欠だと思うのです。

佐々木理事長 (東広島JC) 行政がいかにもまちづくりに熱心でも、住民が無関心であればよいまちづくりは進みません。まちづくりを進めるためには、住民の積極的な参加と、「対抗・隷属する住民から、自立し協働する住民へ」という、住民と行政の新しい関係づくりが必要になってくるのではないのでしょうか。

Check! 「小早川市」「広域合併」

内海理事長 (三原JC) 現在国の施策として、地方分権に伴う権限委譲の受皿となる市町村合併に大きく焦点を当てられたことは、言うまでもありません。

市町村合併というのは、効率性や経済性の向上ということだけではなく、いかにすればよりよい自治が実現できるのかという視点が大切なのではない

でしょうか。こうした視点に立って、さまざまな課題を克服しながら、単なる行政機構の再編ではなく、地域住民も参画して、地域の将来をともに築いていく道すじこそが「広域まちづくり」にほかならないと思います。

そういう意味で私たち三原JCは、はじめに合併ありきではなく、住民と行政とが共に地域の将来を考える中から、ひとつの選択肢として地域再編について考え、昨年、合併モデルとしての「小早川市」を提唱しました。

佐渡理事長 (竹原JC) 「小早川市」を提唱されたことによ

って、竹原JCの中でも広域合併について、興味をもって話す機会を持つようになりました。ただ、住民のなかには、合併したら、「竹原市はどうなるのか」といった不安、三原市に吸収されてしまうのではないかと

いう危機感が多分にあります。私としては、竹原市が活性化できるという前提で、竹原市の地域性が充分発揮できる枠組みでの広域合併を考える必要があると思います。

佐々木理事長 (東広島JC) 東広島市は、西条町・志和町・高屋町・八本松町の4町が対等合併したものです。この東広島市の合併は、広島大学の移転に伴って都市の整備を行うというねらいと結びつい

本紙『やっさもっさ』は、1月から11月まで毎月1回発行し、新聞折り込みを中心に配布しております。何卒ご愛読ください。

やっさもっさは資源保護のため再生紙を利用しています。

